

「 切除不能膵癌患者の長期生存に寄与する因子に関する後ろ向き観察研究 」

の臨床研究へのご協力をお願い

日本において膵臓癌はこの10年間で増加傾向にあり、その大半が外科的な手術ができない進行した状態で診断されています。手術できない場合の標準治療として、遠隔転移を有する患者さんには抗がん剤治療が、遠隔転移は無いものの局所での浸潤のため切除ができない患者さんには抗がん剤治療に加えて局所治療として放射線治療が選択されますが、膵臓癌の長期治療成績は未だ不良であるのが現実です。

一方で、上記の治療がよく効き、副作用もコントロールできた結果、長期生存が得られる患者さんも存在します。抗がん剤治療で病気の進行をコントロールできた結果、当初は不可能と判断されていた局所治療(手術や放射線治療)が可能となった患者さんも存在します。しかしながら、現時点ではそれぞれの治療法の効果や治療継続期間を事前に(治療開始前に)予想することは難しく、また、どのような患者さんで長期生存が得られるのか、まだわかっていません。

そこで、本研究では2016年4月から2021年3月末までの期間に九州がんセンター 消化器・肝胆膵内科で診療を行った膵臓癌の患者さんのうち、診断時に外科的治療が不可能と判断され、一定期間以上(遠隔転移例で2年以上、局所進行例で3.5年以上)の生存期間が得られた方を対象に、過去の日常診療で得られたデータから以下の情報の調査を行います。

年齢、性別、抗がん剤治療・放射線治療開始時の状況、治療効果、治療期間、予後、副作用の内容と治療への影響 など

本研究は日常診療で得られた臨床データを集計する研究であり、これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は個人情報を持ち離して、個人が特定されない形で、厳重に扱います。

皆さんの貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。

本研究に関する研究計画書および研究の方法に関する資料を入手又は閲覧されたい場合、もしくはご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方は、下記の連絡先までご連絡ください。

当院における連絡先

国立病院機構九州がんセンター 消化器・肝胆膵内科

李 倫學

電話： 092-541-3231(代表)